

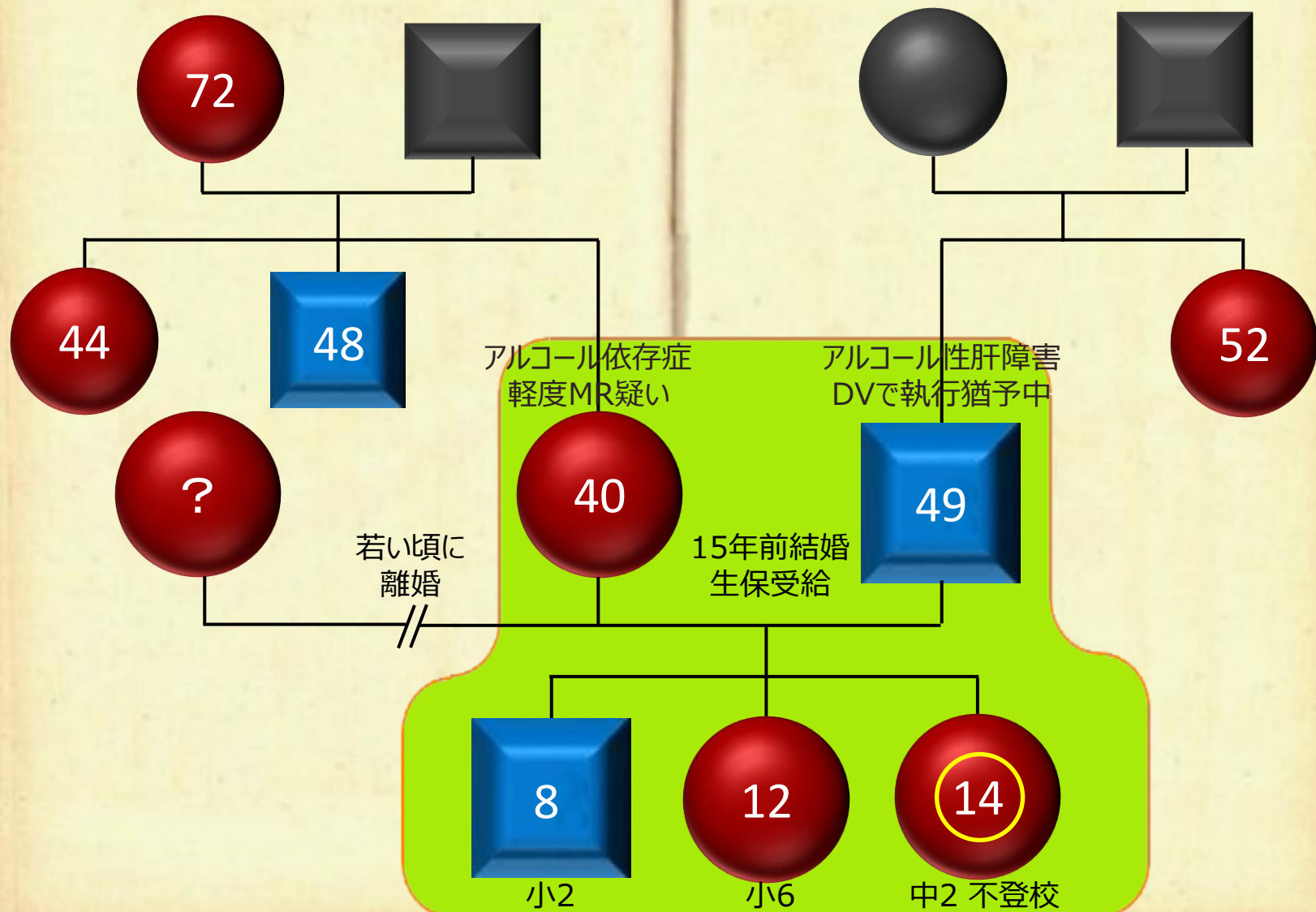
ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

十四 仮想事例検討会②
（後編・手立て）

※ 間隔があいているので、事例を再掲します。



お断り: 事例検討のために作成しました。



両親について

母親は、三人兄弟の末っ子。幼少時に父親が死去し、その後、生保受給。高校を中退し、様々なアルバイトした。25歳の頃、友人の紹介で働いていた飲み屋で現在の夫と知り合う。三人目が生まれ、手が回らなくなるにつれて酒量が増えた。最近は昼ごろに起きることも多く、家事も滞りがち。軽度の知的障害が疑われている。母方兄、姉はそれぞれ結婚しており、ほとんど行き来はない。

父親は、若い頃に離婚歴のある建具師。結婚後、妻と飲酒することが習慣化し、アルコール性肝障害になる。現在は断酒している。半年前、酔った妻への暴言・暴力と止める子どもたちを突きとばしたことで逮捕・起訴され執行猶予中。

母親はよく離婚を口にするが、一人で子どもを育てる自信がなく具体的に動くことはない。父親も、自分がいなければ子どもたちが困るからと離婚は考えていない。

子どもたちについて

長女は、中学2年。小学校時代は、担任から食事・洗濯・宿題等のサポートを受けて登校していた。成績も悪くはなかった。中学に入ると学校の配慮はなく、いじめもあって休む日が増えていった。現在は週1〜2回、昼ごろにふれあい教室をのぞく。家事や妹たちの世話が行き届かない母親を嫌う。父親が家事をするときは、すすんで手伝っている。

小6次女・小2長男（いずれも怠学傾向）は、身なり・宿題・登校など、父親に強く言われるとしぶしぶ従う。両親が口論すると必ず母親をかばう。2人とも通常学級で低学力、学校は様々な配慮をしている。

今回の経緯

母親の飲酒を父親が叱っているとき、長女が「いい加減にしてよ!」と言い、それに父親が「学校を休むやつが偉そうに言うな」と怒鳴った。父親の態度に驚いた長女は、発作的にリストカットをして家を出た。しばらくして近くの交番に行き、家に帰りたくない、生きていても仕方がないと訴えて児相で保護された。

母親は、児相に呼び出されて事情を聞かれ

たうえに長女からは帰宅を拒まれ、飲酒に歯止めがきかなくなった。激高した父親が手を上げそうになり、心配した次女が児相に電話。結局、子ども全員の一時保護となる。

話し合いの結果、母は断酒のために通院する、父親は暴言を控えると約束。次女・長男は家庭引き取りとなった。長女は迷ったあげく父親の提案を受け入れ、保護所で今後のことを考えることになった。

集団における“問題と解決行動と相互作用

※¹ 特定の人の行為を周りの人が問題行動とみなす。

※¹ その人のこれまでのネガティブな情報・出来事を根拠に、“問題”を説明するストーリーができあがる。

※² その文脈に沿って周りの人はそれぞれに解決努力を行うが、改善されないと怒りを用いた行動を選択する。

※³ その集団での“怒りを含む相互作用”は解決行動のパターン化を招き、問題は維持・強化され思考はよりネガティブになる。

- 根拠の再検討から肯定的な基調に導いていく。
- 解決行動を支えている文脈を変える。
- パターンの一部を変えて相互作用に変化をもたらす。

循環

変化

- ※¹ たとえば子ども
- ※² たとえば親、教師
- ※³ たとえば家族、学校

前回までの流れを図にしました。



では、先の図の1～2段目を考えます。家族に起きていることについて、長女は①どんな文脈で、②なにを根拠に、それを“問題”としているでしょう。グループで話し合ってください。



みなさんの発表を
まとめてみました。

▽
▽
(長女の文脈)
我が家は次々と問題が起きる。
それは、長女の
自分が無力で役
立たずなためだ。
(その根拠)
自分の不登校
が両親のスト
レスになってい
る。母の飲酒も
父の怒りも、そ
れによってひど
くなっている。
自分の不登校
が問題なのだ。



続けて3段目です。長女は文脈に沿った解決努力をしてきたわけですが、その結果をどのように評価していますか？グループで話し合ってください。

こんな感じですね。



（解決努力の
評価）
父親を助けて
家事をしようが、
母の代わりに弟
たちの世話をし
ようが、学校を
休んでいるのだ
から認められる
はずがない。
ともかく学校
に行かねばなら
ないが無理だ。

では4段目、家族の相互作用に変化が起きるような文脈を考えてもらいます。ここで忘れてはいけないのは、きちんと地ならしをしておくことです。そうしないと、置き換えは受け入れられません。

- あらかじめジョイニング (※) していること
- エンパワーしておくこと
- 実行可能なプランがセットになっていること
- 新たな文脈は従来の枠の外にあること (意外性、新鮮さ)



- i. 不安を受け止め、解決努力をねぎらう。
- ii. いまそこにある困りごとを支援する。
- ※ iii. 強みに気付いて共有する。
- iv. 雑談の癒す力を活用する。

次々起こる“問題”に圧倒されてネガティブ思考に陥ると、ネガティブな事象しか目に入らなくなる。そうになると、逆にネガティブなことが集まってくる。よく見聞きする話ですね。

いまから彼女の物語を肯定色に塗り替える文脈を考えてもらうわけですが、彼女の確信が揺れるには、力のあるポジティブな根拠が必要です。では、話し合ってください。



▼ 長女は決して無力
 ではない。
 ↓ はじめて家族外か
 らの支援を求めた
 のは長女だ。
 ↓ 「いま大切なのは
 学校より家族」と
 いう英断を下した。
 ↓ 長女が家に居るか
 ら父親は自制でき、
 暴言程度の衝突で
 すんでいる。
 ↓ 現在の母親を支え
 ているアルコール
 の代役を医療機関
 に委ねたのも正解。
 ▼ “問題”は長女の無
 力さではなく、長
 女や父親がアル
 コールの代役にな
 るうとしたこと。

▼ ↓ 父親との関係
 このたびの父親の
 暴発は、「養育と
 家事を切り盛りで
 きるのは自分しか
 いない、自分はこ
 の家に欠かせない
 存在だ」という
 父の信念が、長女
 の支援で揺らいだ
 から。勉強の方手
 間の手伝うくらい
 がちょうどいい。

なるほど、
 なるほど。面
 白いですね。



では、ここまでの話し合いを踏まえてロールプレイで面接をしてください。家族面接でも長女との個人面接でもけっこうですが、きちんと地ならしをすることを忘れないでください。

そのあと長女役の方に、面接者の文脈をどんなふうに受け止めたかをインタビューしてください
(続く)。

